

2010年7月19日勉強会議事録

課題本 前回に引き続き、佐伯啓思『学問の力』四章より

発表者：安達（四章～終章）

出席者：嶋田研・安達・十河晃・嶋田紫・久富

記録者：久富

○ Think Globally , Act Locally.

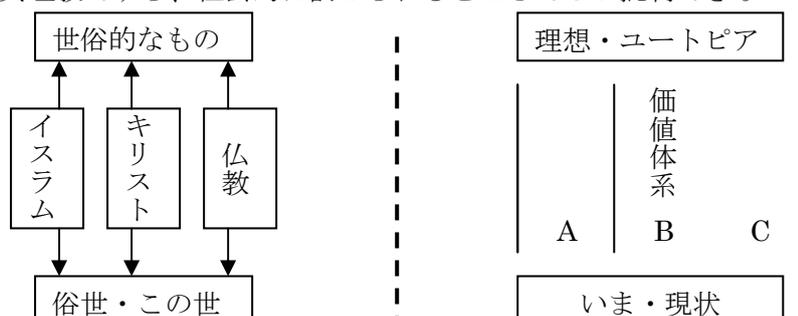
- ・ リッター：globally と locally は対立するものではなく、同時に進行するもの
Locally は globally の一部
- ・ global 化のイメージについて
国際化・世界会議・・・
東大寺でアルバイトをしているメンバーの経験から、街に外国人がたくさんいる感覚
インターナショナル化
- ・ 実は global に対応する日本語がない・・・はっきりとしたイメージがつかみにくい
- ・ リベラリズムの意味は？・・・西洋の価値を認める事が前提となる

○ リベラル 対 原理主義 ⇒⇒矛盾

- ・ リベラル主義には決定的な矛盾点がある・・・リベラル主義では個人の自由を認めているが、宗教の自由・論点を封じる（認める）ことはできない。
- ・ 9・11のアルカイダなどは、アフガン戦争でのアメリカ義勇軍でアメリカの諜報機関の教育を受けた人々がテロを起こしている・・・皮肉
- ・ 創価学会は池田大作を崇拜する宗教
- ・ もはや“日本人”であることが一つの意志表明となり得るのでは
- ・ 宗教性について・・・漫画『20世紀少年』に見られるような・・・
なんらかの奇跡性が必要になってくる
ある意味何かの“ファン”になることも同じか？

○ 宗教とはシステム？

- ・ 価値は批判できない・・・突き詰めていけば宗教戦争になる
- ・ オウム真理教ですら、社会的に罰せられるところでしか批判できない



- ・ “義”・・・自身の都合が第一ではなく、大きなもののために自分を投げ出すこと
様々なレベルで“義”がある。例えば海の日に勉強会に来ることも義

○ リアルとヴァーチャルについて

ここでは、リアルとヴァーチャルについて各々の問題と感ずることを話し合った。

- ・ テレビ内の出来事と現実の区別があいまいになってきている。バラエティーが子供にとって悪影響を与えるという批判など、テレビで行われていることが実際にできるはずという前提ができています。
- ・ 人間の華やかな部分だけを貼り付けている。苦しい部分がカットされ、物事が簡単に進むという錯覚に陥る。メンバーが例にだしてくれた、アメリカのマジシャンの話は、総てやらせで、大掛かりなセットで視聴者を惑わせたラストに、“メディアを信じてはいけない”と言ったそう。
- ・ 視聴率のまやかしはイメージ操作の最たるものでは。
- ・ タバコの持つ時代的役割。間を持たせたり、手持ち無沙汰なときに吸われたりしていたが、現在では携帯電話がその役割を担っている。むしろ携帯依存症になっている。
- ・ 大学での人間関係が希薄になっている。携帯があれば中学・高校の人間関係とまだ繋がっている。朝まで議論したり語り合ったりということがない。携帯がないと友達にも会えない。
- ・ Mixi、twitterなどのSNSでの繋がりが幅を利かせる。宮台真司が、自分の葬式に来てくれる人が何人いるかと言っていた。
- ・ リアルな世界に生きているのに手段がヴァーチャル化している。

○ ゆり戻しは来るのか・・・

○ リアルとヴァーチャルの違い・線引きはどうなっている？

- ・ 昔はヴァーチャルの区別がはっきりしていた（ゲームでもブロック崩しやインベーダーゲームなど）。現在は「love plus」というような、恋愛シュミレーションゲームがある。
⇒これがリアルでも起こりうるのではと錯覚させられる
- ・ リアルとヴァーチャルのどちらに重きをおくのかということが問題。
- ・ テレビはヴァーチャルだったのに、90年代くらいからヴァーチャル（テレビ）の報道で選挙の得票数に影響が出だした。昔は、“同情票”というものがあり、それを読んだ上で有権者が投票していた。

○ 夏目漱石が生きていた時代の文通について・・・現代との違いは？

- ・ 現代のメールやチャットは、声や筆跡など、その人の特徴が出てこない。
- ・ 究極はそこにぬくもりや同じ価値観のもとでの共感があるか。
⇒心理学・脳科学ではそのぬくもりや共感も数値で表す。こうなってくると人間とロボ

ットの区別がなくなってしまうのでは。

- ・ おもいやりは1人がすること

ぬくもりは相手との関係の中で感じるもの

⇒価値観の共有・相手のことを感じる

- ・ “関係性の履歴”（宮台真司）・・・“お前が死んだら俺は悲しい” ⇒今までの関係性があって初めて成り立つ（相手もそれに共感している必要がある）

○ 人間の理性を万能としない保守主義

- ・ 昔の人々に敬意を表している。
- ・ 相容れなくても良い・・・住み分けも良い。
- ・ 正しい事・間違ったことが言える・・・批判ではなく否定ができるのは宗教
⇒だから現在は宗教に回帰している？
- ・ ポストモダンは何でもしていいようなイメージがある
⇒現代は、批判はできても否定ができない

○ このような状況下でいかに生きていくべきか

- ・ 中庸で生きる・・・常に真ん中から物事を見ていく姿勢が必要・信念を持った生き方をすることが大事では
- ・ 絶対的なものの存在を感じていることが前提。
- ・ GOD=神は最大の誤訳と言われる・・・“権力者”でも通じたのでは。
日本の“神”は精霊。

○ 以下雑談にて・・・

- ・ 情報力というものを感じており、それには2つの方向性があると感じるとメンバーが話してくれた

・

情報力 { ① 流布力⇒広告・ワイドショー
② 納得力⇒セミナー・勉強会・読書など

⇒この2つは
反比例する

- ・ 勝間和代について

“カツマー”と呼ばれる人々が存在している。

勝間和代は現代の理想の母親像とされる！？・・・女性メンバーはどちらもカツマーには否定的・・・

勝間和代のようになってしまうともはや女性とは呼べないのでは・・・

まだ香山リカの言っていることのほうが理解できる。